



# Argo アゴラ



1997年1月 第74号

鶴見大学図書館報

## 芥川賞と直木賞



最近の芥川賞受賞作品

この2つの文学賞はとても有名ですが、いつ・誰が始めたか等をすぐ答えられる人は少ないでしょう。芥川賞は文藝春秋に、直木賞はオール讀物に掲載されますから、文藝春秋社に関係あることはすぐ気がつくかもしれません。

授賞が実施されたのは、昭和10(1935)年7月からです。文芸春秋社長であった菊池寛が、前年に没した直木三十五と先に亡くなった芥川龍之介の名を記念して同時に設立しました。年2回、上半期(7月)と下半期(1月)で上半期は前年の12月1日から5月末日まで、下半期は6月1日から11月末日までの発表作品から選ばれます。受賞は正賞が時計、副賞は現在100万円ですが、開設当時は500円から始まりました。社が苦しくなったときも賞を続けられるように



最近の直木賞受賞作品

と配慮し、高額にされていません。また、菊池寛は両賞を制定する際に、「無名若しくは無名に近い新進作家を世に出したい為である。」とも書いています。太平洋戦争で一時中断したものの、今年度の上半期で115回を数え、現在でも新進作家の登竜門としてもっとも権威ある賞とされ、注目を集めています。

純文学の芥川賞、大衆文学の直木賞ということで本図書館には直木賞作品が少ないのですが、最近ではどちらの賞についても単行本で受入されるようになりました。

# 大学図書館体験記

文学部総合教育 小林 恭治

大学生になって、初めて大学図書館に足を踏み入れたとき、ここは大人の空間だと感じた。そこでは、極めて厳格に「静粛」が保たれていたからである。大学図書館には、純粹に読書を楽しむ人の他にも、レポートの資料探しや、定期試験対策、就職試験や資格試験の勉強のために、静かな空間を求めて訪れる人もいる。目的は様々だが、互いの自由を認め合うための最低の条件が、他人の邪魔をしないということだ。

閲覧室を持たず、貸出し業務のみに徹すれば「静粛」を維持する努力など無縁となるのに、敢えて閲覧のスペースを充分にとっている図書館は、「利用者が理想的な学習環境を維持できる力を持った大人であること」を期待している。

学生時代、僕は図書館をあてにしなかった。専攻が多すぎて細部の専門図書を購入する予算がなく、購入しても、登録手続きに何ヶ月もかかり、目の前にあるのに背表紙しか見られないことに嫌気がさしていたので、必要なものは個人的に買うことにしていた。

昨年末、前田家本三宝絵の複製本を演習の授業で使いたいと思い、古書目録で探して、図書館に購入をお願いしたことがある。十万円を越える代物だったので、まず無理だろうと思ったが、新年度には是非と思っていたので、個人的に買おうかと考えていたら、意外にもOKがでた。利用まで一ヶ月もかからなかったので理由を訊ねたら、古本は直ぐに買わないと無くなっちゃうでしょと言われた。プロの言葉である。

日本中の古書が集まると言われる神田神保町界隈では、それでも国語国文関係は出物が少ない時期を迎えていると言われている。購入してくれた三宝絵は、その後どこの目録にも現れていない。まさに最後のワンセットだったわけだ。おかげでその年の学生たちにも紹介することができたのである。

現在、大方の図書館では、図書の磁気管理を行っているが、母校では新設当時それがなかつ

た。年間約一千冊もの図書が紛失したため、やがてそれを始めたが、情けないことである。手続きが面倒といっても、私物ではない図書を持ち出す代償と思えば、それほどのことではない。無断貸出の対応策として、閉架にする案もあるが、閉架の良いところは、実際に手にとって、内容を確認できるところにある。目当ての図書のすぐ隣にある関連図書に手を伸ばすことは閉架ではできない。図書があること、そしてそれを利用できることの恩恵は、それが無いことを思えば計り知れないものである。

国語学には「辞書」のジャンルがある。大抵、「辞書」はレファレンスブックで禁帯出だ。

ある大学図書館で、平安時代の古辞書を授業で利用したいと申し出たところ、学生に図書館まで見に来るように伝えて下さいとのことで、やはり許可されなかった。これはよく考えたとおかしなことである。大学図書館において、その蔵書を授業で利用すること以上のことがあるであろうか。一度に数十人がその図書に触れることが確実であるのだから、常識的に考えて、図書の稼働率は、図書館においておくよりも高いに決まっている。古辞書を一般の国語辞典等と同列に扱うのも変だ。それなら、図書館で授業をとも考えたが、そんな場所はなかった。

大学図書館は博物館ではない。どんなに貴重な図書でも、保存することばかりに御執心で、誰にも利用させないのであれば、その図書は無いも同然である。

鶴見の図書館で驚いたのは、手垢で汚れたり、痛んで修補した図書が思いの外多いことである。これは利用頻度の高さを証明するものに他ならないし、そう仕掛けている人がいるということでもある。何年も前の図書が新品のままであることは良いことではない。見かけはボロボロでも利用に支障のない図書たちは、代々の勤勉な「大人たち」とそれを援助しつづけた「プロフェッショナル」の存在を物語っている。



# OPAC & Lead に関するアンケートのまとめと回答

## 閲覧係

平成7年より、目録検索端末（OPAC）のバージョンが新しくなっています。また、図書館案内システム（Lead）も導入されました。そこで、図書館ではこれらのシステムの使われ方や利用者の考えを知るためにアンケートを実施しています。1階の検索端末のところに記入用紙と回収箱が置いてあります。今回はそれに寄せられたものについての図書館側の考えや回答をまとめました。

アンケートは今回10通寄せられました。以下がその内容です（文章そのまま）

- ◆一覧を一度にたくさんめくる方法がありますか。
- ◆印刷が詳細情報表示で一つ一つしかできないので、一覧表をそのままコピーできるようにしてほしい。
- ◆検索結果をコピーする時、1冊ずつの詳細も必要だと思いますが、全体一覧表で出たら便利だと思う。コピーをする枚数（本の冊数）が表示されるとよい。
- ◆本の値段を知りたいです。
- ◆本の住所（番号）までわかれば、その地図を出すこともできないものか。せめて、1階か2階くらいは出てほしい（何番が2階かいちいち覚えていないので）
- ◆検索語を2つ以上入力した時に、「検索語クリア」にすると入力した語が全て消えてしまうのが使いづらい。複数検索語がある時は、「一番最後に入力した語のみ消せる」というコマンドがあるとありがたいのですが。
- ◆うちの学校にも新しいマシンが入った！とうれしくなります。CD-ROMとかももっと気軽に使えればいいと思うし、何よりも、INTERNETに接続してもらって世界規模で書誌検索できればいいのに。あとNECとかよりMACの方が使いやすいと思います。いかがでしょうか？
- ◆図書館の雰囲気がとてもよかった。もう少しクーラー効かせて。
- ◆図書館の中でおしゃべりしている人が多すぎて、うるさくて困ります。司書の方、巡回して注意してください。おねがいします。
- ◆図書館案内システムや、目録端末とは関係ないが、このような意見箱があるのは、うれしいので、ずっと置いてほしい。

次のページから、重複する質問はまとめて、それぞれに答えていきます。



## 1： 検索結果の一覧を一度にめくる方法

\*申し訳ありませんが、一覧は1ページずつしかめくれません。一覧は一度にたくさんのページをめくるものではありません。一覧表示のデータは単に入力した順に並んでいるだけなので、検索者が必要としているデータが飛ばしたページに含まれてしまう可能性があります。一覧を飛ばし読みしていたのでは、検索をしている意味がなくなってしまうのです。検索語の入力方によっても表示内容が変わってきます。

とは言うものの、あまりたくさんのデータが出た時には、次々とページを表示させていくのはもどかしいものです。そのようなことを避けるために、いくつかの検索語を入力して、データ量を絞り込むようにしてください。(ちなみに、一覧表示ができるデータ量は500件までです。検索結果件数が500件以上あっても、500件分までしか表示しません)

## 2： 一覧を印刷したい

\*検索結果一覧の印刷はできません。目録の印刷は、書庫内資料の閲覧申し込みなどに利用するためにあるものです。請求記号等の情報を得るために打ち出すのが目的なので、それらの情報が表示される詳細画面だけの印刷となっています。

## 3： 本の配置図を表示できないか。1階にあるか2階にあるか、は出ないか。

\*そうできればとても便利だと思います。しかし、本は動きます。スペースの都合で地下の書庫に降ろすことがありますし、1階2階間を移動することもあります。そのたびに配置図や目録を作り替えるのはとても大変な作業です。それを行うほどの体制は当図書館では整えられていません。

大まかに言って、1階には人文科学系図書・雑誌、2階には社会科学系、自然科学系の図書・雑誌が配架してありますので、これをめやすとしてください。

また、Leadのメニューに“本の場所”という項目があって、そこを見ると図書館内の本の大体の配置図が出ています(ただし、一部本を移動したところがあり、まだ直していない箇所もあります)。



## 4： 「検索語クリア」にすると全ての検索語が消えてしまう

\*検索を終了する時や、全ての検索語を消去して、新たな検索を始めたい時などには「検索語クリア」にしてください。画面は初期状態に戻ります。

しかし、いくつか前の検索語に戻って検索を続けたいということもあると思います。その時は、必要な検索語を選んで、「結果一覧」をクリックしてください。選択した検索語までの検索が表示されます。

検索結果が0件になってしまった時は、気にせず次を検索語を入力してください。一つ前の検索語との積がとられます。さらに、論理演算式を利用して検索すれば、いろいろな掛け合わせが行えます。多機能検索モードに入ると、



画面下に説明が出ます。

\*検索語一つ一つを消去することはできません。

\*年度始めに目録検索のガイダンスを行っています。検索の仕方の基礎から、ちょっとした技術まで教えてもらえます。

## 5： 本の値段を知りたい。

\*以前のバージョンのOPACでは、図書の価格を見ることができましたが、今回のものではそのデータは表示されません。残念ながらOPAC画面で図書の価格を調べることはできなくなりました。しかし、それを調べるための参考図書が図書館にはあります。日本書籍総目録などを見ていただければ図書の価格データも記載されていますので、そちらで探してみてください。

## 6： 検索機の機種について。

\*機種を選択については、なかなか難しいものがあります。使いやすいと思うマシンは人によって違いますし、予算や、今まで蓄積してきたデータ・システムの問題もありここで急に別の機種にかえるということではできません。

必要な本が図書館にあるのか、そしてあるとすればどこにそれが置いてあるのか、ということ調べる時に目録検索端末（OPAC）を使います。図書館の本は、その主題内容の分類順に並べられています。OPACの画面にも当然、その分類番号が表示されています。その番号を頼りに、本を探しに行くわけです。このことは、図書館を利用する上での常識のようなものですので、利用者のみなさんは覚えておくようにしてください。

アンケート用紙と回収箱は引き続き設置しておきます。OPACやLeadについて質問や意見がある方は何でも記入してください。今すぐには無理でも、次期のシステムにバージョンアップする際には対応できる点もあるかもしれません。みなさんのいろいろな意見を伺って、要望の実現に向かって努力をしていきます。

## 7： 図書館内の環境について。

### 7.1: クーラーを効かせてほしい（夏）

\*クーラーについては、申し訳ありませんが図書館ではどうにもなりません。調節が図書館ではできないのです。しかし、クーラーを効かせてくれという意見は初めてです。クーラーが効きすぎて寒いという人は今までかなりいました。このことにつきましては、自衛していただくしかありません。吹きだし口の下とか日光の入る窓際などでは温度差ができますので、よさそうな席に移動するか、あるいは服装で工夫するなどしてください。

### 7.2: おしゃべりする人がいてうるさい。

\*大変申し訳ありません。これには図書館側もとても困っています。ある程度は巡回して注意しているのですが、人手も少なく、すべての時間帯をカバーしきれないのが実状です。利用者に常識的な行動を望みます。図書館はいろいろな使い方があると思いますが、静かな学習が第一義です。

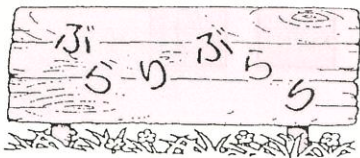


## 新刊あらかると

最近整理された本の中から読み物的なものを紹介します。すべての新刊本は、入口正面の新着図書展示棚に一週間展示されます。

- Windows 入門 新しい知的ツール (岩波新書) 脇英世著 岩波書店 1995 (007.6/W)
- 日曜日の読書 阿刀田高著 富士通経営研修所 1996 (019.1/A)
- 東京近郊博物館で生物を学ぼう 伊藤洋文著 裳華房 1996 (069.846/I)
- 神々の指紋 上・下巻 グレハム・ハンコック著 大地舜訳 翔泳社 1996 (209.3/H)
- 娘たちの江戸 森下みさ子著 筑摩書房 1996 (210.5/M)
- パンとワインを巡り神話が巡る (中公新書) 臼井隆一郎著 中央公論社 1995 (230.3/U)
- 三国志の風景: カラー版: 写真紀行 (岩波新書) 小松健一著 岩波書店 1995 (292.209/K)
- 男は女より頭がいいか ジョン・ニコルソン著 村上恭子訳 講談社 1995 (361.4/N)
- 英国紅茶論争 (講談社選書メチエ) 滝口明子著 講談社 1996 (383.8/T)
- 五節供の楽しみ 七草・雛祭・端午・七夕・重陽 冷泉為人著 淡交社 1996 (386.81/R)
- こどもの発達とヒトの進化 (みんなの保育大学) 井尻正二著 築地書館 1993 (469.2/I)
- ゾウの鼻はなぜ長い 動物の不思議31 加藤由子著 講談社 1966 (481.78/K)
- 「死の医学」への日記 柳田邦男著 新潮社 1996 (490.14/Y)
- 歴史人物お脈拝見 著名人も悩んだ病気のあれこれ 坂東定矩著 ぎょうせい 1993 (490.4/B)
- 誤診 なぜ起きる、どう防ぐ (ブルーバックス) 大鐘稔彦著 講談社 1996 (492.1/O)
- 歯相学入門 健康で美しい歯づくり 前田恵三著 静岡新聞社 1996 (D04/M)
- 女性なぜ長生きか 長寿に学ぶ健康のコツ 宮城重二著 講談社 1966 (498.38/M)
- 和漢菜への招待 難波恒雄著 東方出版 1996 (499.8/N)
- 中世祈りの造形(かたち): フランス・スペイン・ポルトガル 山崎脩著 東方出版 1996 (523.3/Y)
- 青空の下で、いただきます! アウトドア・クッキング・ノート 田中律子著 地球丸 1996 (596.1/T)
- ハーブの楽しみ方 (とんぼの本) 田渕善雄他著 新潮社 1996 (617.6/H)
- 花 その魅力とデザイン 吉田光邦著 淡交社 1996 (627/Y)
- 佛像と私 二十一人の心の旅 瀬戸内寂聴他著 世界文化社 1994 (718/B)
- からくり人形 (Gakken graphic books) 鈴木一義著 学習研究社 1994 (759/S)
- 大作曲家の少年時代 ウルリッヒ・リュウレ著 鈴木皓訳 中央公論社 1996 (762.8/R)
- これだけは見ておきたいバレエ (とんぼの本) 佐々木涼子 瀬戸秀美著 新潮社 1996 (769/S)
- 教養としての言語学 (岩波新書) 鈴木孝夫著 岩波書店 1996 (801/S)
- 英語世界の漫歩計 平野次郎著 NHK出版 1996 (830.4/H)
- ミステリー&エンターテインメント700 河田陸村 藤井鞠子著 1996 (902.83/K)
- 墨田川の文学 (岩波新書) 久保田淳著 岩波書店 1996 (910.2/K)
- 異界の花 ものがたり植物図鑑 塚谷祐一著 マガジンハウス 1996 (910.26/T)
- 万葉の女たち男たち (朝日文庫) 石丸晶子著 朝日新聞社 1994 (911.122/I)
- 猫好きの話 西麻布雑記 遠山一行著 小沢書店 1996 (914.6/T)
- 漢詩の故里 (新潮選書) 渡部英喜著 新潮社 1996 (921/W)
- シェイクスピアのハーブ 熊井明子著 誠文堂新光社 1996 (932.7/K)
- トールキン指輪物語伝説 D. デイ著 A. リー画 塩崎麻彩子訳 原書房 1996 (939.0/T-3/D)
- ムーミン童話の百科事典 高橋静男「ムーミンゼミ」 渡部翠編 講談社 1996 (949.83/J)





あわただしく毎日の生活に追われてしまう私達ですが、ふと安らかな緑—森や静かな流れ—を恋しく思う瞬間を誰もが持っているのではないのでしょうか。そのような時、遠くまで旅をしなくても、都会の中にありながらまさに心の一服の清涼剤となりえるところ、目黒の“自然教育園”をご紹介しますと思います。

J R 目黒駅から目黒通りを白金方面に歩くこと7分余り、そこに国立科学博物館付属の自然教育園があります。ここは、大都会東京の中にあって、今なお武蔵野の自然の面影をそのままに留めているオアシスのような緑地です。そして国の文化財として天然記念物及び史跡にも指定されています。周囲は中世の時代に築かれたといわれる土塁に囲まれ、シイ、松などの常緑樹やコナラ、ケヤキ等の落葉樹の巨木が、うっそうとした森をつくっています。この森の中には静かな池や草はらなどがあり、野鳥の声が聞こえ、足元に咲く小さな野草は私達の心を和ませてくれます。特に秋には黄色い銀杏や赤いもみじが美しく、ゆったりと流れる時間の中、木漏れ日の小道を進み、ひょうたん池のそばのベンチで休むとなぜか優しい穏やかな自分が居るのに気づきます。そんな不思議な力が緑にはあるのですね。日常の雑念を忘れ、森の香りを胸一杯に吸い込んでください。

江戸時代は松平讃岐の守の下屋敷、最近では白金御料地という歴史を持ち、面積20万㎡の広い自然園ですが、自然保護のため入園者数を制限しているとのこと、デートの場所としてもお勧めします。

さらに隣の東京都庭園美術館を鑑賞した後は、白金から麻布方面へぶらりぶらり、途中、洒落たお店でお茶などはいかがでしょう。

小春日和の一日、都会の隠れたオアシスにひととき浸ってみてください

(M. B.)

参考係から

## (12) 英 米 文 学

当館には、英米文学に関する研究書がたくさん所蔵されています。作家の評伝、作品批評、作家や作品に関する参考文献一覧などの図書、英米文学研究の外国雑誌などです。

一つの作品を一冊のコンパクトな概説書にまとめた“Cliffs Notes.”や、研究社の『英米文学叢書』には、個々の作品についての解説と、さらに研究を進めるための参考文献があり、その作品と作家の全体像を簡単に知ることができます。何十冊ものまとまった叢書として出版されていて、著名な作品はほとんど収録されています。“Bloom's notes.”は、今年から刊行が開始された叢書です。

これらの叢書の配架場所は、個々の作家の請求記号の書架です。“Cliffs Notes.”のみは、新書コーナーの後ろにまとめておいてあります。研究社の『英米文学叢書』は、閉架書庫にあって、目録端末では検索できないので、カード目録から探してください。

作家毎の研究書をまとめた叢書もあります。Twayne's English authors series. (930.18—T)、Twayne's United States authors series. (A 930.18—T)

作家・作品の研究や参考文献一覧をまとめた参考図書もあり、利用に便利のように、今秋から参考係の後ろの書架にまとめました。

Twentieth-century literary criticism. (参考 903-T)、Nineteenth-century literature criticism. (参考 903-N)、Contemporary literary criticism. (参考 903-C)、Literature Criticism from 1400 to 1800. (参考 903-L)、Poetry criticism. (参考 901.1-P)、Dictionary of literary biography. (参考 930.13-D)、Linguistic Bibliography for the year. (参考 803.1-L)、MLA International Bibliography of Books and Articles on the Modern Languages and Literatures. (参考 803.1-M)

# 図 書 館 だ よ り

## ◎図書館カレンダー

1

| 日 | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|---|----|----|----|----|----|----|
|   |    |    | ①  | ②  | ③  | ④  |
| ⑤ | ⑥  | ⑦  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| ⑫ | 13 | 14 | ⑮  | 16 | 17 | 18 |
| ⑲ | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| ⑳ | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |    |

2

| 日 | 月  | 火  | 水  | 木  | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|---|---|
|   |    |    |    |    |   | ① |
| ② | ③  | 4  | 5  | 6  | ⑦ | ⑧ |
| ⑨ | ⑩  | ⑪  | 12 | 13 | ⑭ | ⑮ |
| ⑯ | 17 | 18 | 19 | 20 | ⑰ | ⑱ |
| ㉒ | 24 | 25 | 26 | 27 | ㉔ |   |

3

| 日 | 月  | 火  | 水  | 木  | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|---|---|
|   |    |    |    |    |   | ① |
| ② | 3  | 4  | 5  | 6  | ⑦ | ⑧ |
| ⑨ | 10 | 11 | 12 | 13 | ⑭ | ⑮ |
| ⑯ | 17 | 18 | 19 | ㉒  | ㉓ | ㉔ |
| ㉕ | ㉖  | ㉗  | ㉘  | ㉙  | ㉚ | ㉛ |

4

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    | ①  | ②  | ③  |
| ④  | ⑤  | ⑥  | ⑦  | ⑧  | 9  | 10 |
| 11 | 12 | ⑬  | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | ㉔  | ㉕  | ㉖  | ㉗  |

### 開館時間

平 日 9:00～19:00

土曜日 9:00～16:00

●=閉館日 □=開館時間短縮日 平 日 9:00～16:30

土曜日 9:00～12:30

但し、視聴覚室は月～金の10:00～18:30

## ◎平成8年度卒業予定の皆さんへ

図書館利用カードの有効期限は在籍期間中と  
なっていますが、3月15日が最終返却日となり、  
3月16日以降は貸出できませんのでご承知おき  
ください。

## ◎いよいよ後期テストです！

後期テストが近づき、図書館を利用する機会  
が増えると思います。以下のことに充分注意し  
てください。

- ★迷惑になるような「おしゃべり」は厳禁。
- ☆ノート類のコピーはできません。
- ★貸出期限「2週間」を守ってください。
- ☆館内での喫煙・飲食厳禁。

## ◎視聴覚サービスからのお知らせ

◇映写会があります

### 『ビック』

1月13日（月） 2:40～4:35

トム・ハンクス主演のファンタジー

◇しばらく閉室になります

### 閉室期間

1月16日（木）～4月12日（土）

来年度は4月14日（月）より開室。

アゴラ ー鶴見大学図書館報ー 第74号 1997年1月10日発行 編集・発行 鶴見大学図書館 納富 常天  
〒230 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 ☎045-581-1001・FAX045-584-8197

印刷／朝日オフセット印刷株式会社